

科目名	基礎看護学実習 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		1	1年 後期	
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	45時間
担当者	越智文香	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
担当者	重見友子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	

授業の目的・ねらい

入学後、学内で学んだ基礎的知識・技術及び態度をもとに、病院の見学実習を通して、入院している患者の療養環境や治療環境の実際を知るとともに看護及び看護師の役割について理解する。その上で、コミュニケーションや観察を通して、入院が患者に及ぼす影響や患者の基本的ニーズについて考え、一部のニーズに応じた日常生活援助を実際の看護場面で実施する。全体を通して体験したことから、今後の自己の学習課題を明確にし、看護に対する考えを深め、問題解決能力の基礎を身につける実習とする。

学生の到達目標

- 見学実習（15時間） ※学内オリエンテーション4時間含む。
1. 患者の療養生活を理解できる。
 2. 看護師の行う援助（身体的援助・心理的援助・環境の保持）について理解できる。
 3. 生命を尊重し、思いやりのある態度を身に付ける。

援助の実施（30時間）

1. 患者の特徴を理解できる。
2. 日常生活援助を通し、対象とコミュニケーションができる。
3. 対象の基本的欲求（飲食・排泄・姿勢・清潔・環境）を理解できる。
4. 必要な援助を指導を受けながら対象に合った方法で安全・安楽に実施できる。
5. 何にでも疑問をもち、自ら、それを解決する姿勢を身に付けることができる。
6. 看護学生としての責任と義務を果たす行動をとることができる。
7. 自己の看護観をもつことができる。

授業概要（授業計画）

事前学習

1. 患者の特徴、患者の療養生活、看護師の役割、基本的欲求についてレポート提出
2. 技術の復習 コミュニケーション、環境整備、ベッドメイキング、体位変換
移送（歩行介助・車椅子移乗・ストレッチャー）、手洗い
食事介助、口腔ケア

< 見学実習 > 15時間

実習場所

済生会今治病院

実習内容

1. 実習オリエンテーション
 2. 病院見学
病院の環境の理解
 3. 見学実習
病院の環境の理解
入院患者の療養生活の理解
- カンファレンス 看護の機能・役割の理解

学生主体で実施する。 30分程度

< 援助の実施 > 30時間

実習場所

済生会今治病院

実習内容

1. 1名の患者を受け持つ
2. コミュニケーション技術
3. 基本的欲求の理解
4. 5つの基本的欲求（飲食・排泄・姿勢・清潔・環境）に対するアセスメントと援助実施

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
見学実習（30%）、援助の実施（70%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	2年 後期	
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	渡部康子	資格	看護教員 保健師	実務経験	有・無	時間	
担当者	曾根みゆき	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	加賀爪美佳	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>学内で学んだ基礎的知識・技術および態度を実際の看護場面で展開し、対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の行う援助（教育活動・診療の介助）の実際について見学を通して理解できる。 2. 対象の状態に応じたコミュニケーションを工夫できる。 3. 対象を総合的に理解し、基本的欲求に基づいた援助の必要性をアセスメントできる。 4. 対象の個別性を考慮した計画に基づき、安全安楽に日常生活援助を実施し、評価・修正できる。 5. 生命を尊重し、思いやりのある態度を身につけることができる。 6. 学生としての責任と義務を果たす行動をとることができる。 7. 自己の看護観を育成できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概要を想起する 2. 14の基本的欲求を想起する。 3. 疾病の病理生理・合併症・看護についてレポート提出 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を1名受け持ち、看護を展開する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションを図る中で、対象の状態に応じた接し方を工夫する。 (2) 基本的欲求の14の構成要素に基づき情報収集をする。 (3) 対象の状態を分析し、看護診断を導き出す。 (4) 看護診断に対する計画を立案する。 (5) 計画に基づき援助を実施する。 (6) 記録を通して自己の援助を評価・修正する。 2. 看護師の行う援助の観察をとおして看護師の行う教育的活動を見学する。 3. 診察時の看護の役割と援助を見学する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>							

科目名	看護過程発展実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	2年 後期	
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	渡部康子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
担当者	曾根みゆき	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	加賀爪美佳	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>対象の健康障害が、生活に及ぼす影響を成人期の特徴を踏まえながら、基本的ニーズの視点からヘンダーソンの枠組みで整理し、看護展開する方法を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を理解できる。 2. 対象の持つ健康障害を理解し、看護過程が展開できる。 3. 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 5. 対象の生命を尊重し、尊厳をもって接することができる。 6. 看護学生としての責任と義務を果たす行動をとることができる。 7. 自己の看護観を表現できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の特徴と身体的・心理的・社会的側面について想起する。 2. 受け持ち患者の発達段階について想起する。 3. 受け持ち患者の疾患、病態生理についてレポートを提出する。 4. 受け持ち患者の健康障害により生じている問題の解決に必要な看護についてレポートし、提出する。 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主として健康障害にある対象を1名受け持ち、看護過程を展開する。 2. 受け持ち患者の優先度の高い複数の看護問題に対する援助を計画し、実施する。 3. 他職種との連携や継続看護の実際について、看護師とともに一部実施する。 4. 自己の目指す看護師像と自己の課題について明確にする。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>							

科目名	地域を知る実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期
区分	専門分野		講義 見学		1	1年 通年
担当者		資格		実務 経験	有・無	30時間
担当者		資格		実務 経験	有・無	
担当者		資格		実務 経験	有・無	
<p>授業の目的・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動に参加し、その土地に暮らす生活者と関わり、その土地の特徴や生活者の状況を理解する。また、生活者を支えるための支援を通して生活者の暮らし・支援を理解する。それらを基にグループワークを行い、学習内容を発表して理解を深めるものとする。 ・様々な生活者とのコミュニケーションを通し、自己の特徴を知り、課題を改善点を見出すものとする。 						
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす様々な生活者に合わせたコミュニケーションができる。 2. 地域で暮らす様々な生活者の地域の特徴について理解できる。 3. 地域で暮らす様々な生活者の暮らしについて理解できる。 4. 地域で暮らす様々な生活者との関わりを通し、自己の特徴(利点・欠点)について考え、よりよい人間関係の形成を行うための課題を明確にする。 						
<p>授業概要(授業計画)</p> <p><事前学習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージとその特徴 2. コミュニケーションとその技法 3. 地域を知る学習の内容を想起する。 <p><実習場所></p> <p><実習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動 ・公民館活動 <p><学内></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、実習の注意点他 ・グループワーク(地域の特徴、生活者の特徴、生活者を支えるための支援と実際) (生活者がその土地で暮らすための工夫、生活を発展するための方法) ・グループワーク内容の発表 						
<p>教科書</p> <p>特に指定しない</p>						
<p>参考書</p> <p>特に指定しない</p>						
<p>成績評価方法</p> <p>出席状況、レポート内容、グループワークとその発表内容から評価を行う。</p>						



科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ(地域に暮らす生活者)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	1年 後期	
区分	専門分野							
担当者	越智文香	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間	
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間		
担当者	重見友子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>施設や病院で生活する生活者との関わりを通して、人の特徴を理解し、看護の援助方法の実際を学ぶ。また地域の暮らしを支える職種と看護師の役割についても学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <p>老人保健施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人保健施設を利用している生活者の生活と環境が理解できる。 2. 老人保健施設を利用している生活者とコミュニケーションができる。 3. 老人保健施設を利用している生活者がもつ基本的欲求を理解し、日常生活援助ができる。 4. 施設を利用する生活者を支える職種を知り、それぞれの役割について学ぶ。 5. 事実や理論に基づきながら思考・判断する 6. 自己の看護観について述べるができる。 <p>病院</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を抱える生活者の入院前と現在の状況について理解できる。 2. 健康障害を抱える生活者に応じたコミュニケーションができる。 3. 健康障害を抱える生活者について理解し、これからの日常生活につながるような援助ができる。 4. 健康障害を抱える生活者が地域で暮らすための支援内容について理解できる。 5. 事実や理論に基づきながら思考・判断する。 6. 自己の看護観について述べるができる。 								
<p>授業概要(授業計画)</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の身体的・精神的・社会的機能の特徴と変化 2. 老年看護の特徴 3. 高齢者を取り巻く保健・福祉サービスについて 4. 介護保険について <p>< 老人保健施設 > 45時間</p> <p>実習場所</p> <p>燧園 八恵園 ときわ園 シルビウス・ケアセンター 他</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入所者の身体的・社会的・精神的特徴を観察する 2. 入所者の一日の生活状況を理解する (集団リハビリやレクリエーションへの積極参加) 3. 加齢による変化に応じたコミュニケーション実施 4. 入所者を1名受け持ち、日常生活の援助を行う (施設内における指導者と行動を共にし学ぶ) 5. 入所者が受けている保健・福祉サービスを知る <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>								

事前学習

1. 各発達段階の身体的・精神的・社会的機能の特徴と変化
2. 生活者を取り巻く保健・福祉サービスについて
3. 受持つ生活者の情報に対する学習
4. 地域を支える他の職種とその役割

< 病院 > 45時間

実習場所

吉野病院
放射線第一病院
美須賀病院
瀬戸内海病院
今治市医師会市民病院

実習内容

1. 老年期にある患者を1名受け持つ
2. 6つの基本的欲求について情報収集し、アセスメントする
3. 気がかりな基本的欲求について援助の計画を立案する
4. 援助は看護師とともに実施する。
5. 加齢による変化に応じたコミュニケーション実施

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
老人保健施設（50%）、病院（50%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ(訪問・保健センター・透析)	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			実習			2	3年 通年
区分	専門分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>地域で生活している高齢者や難病等の療養者とその家族の特性とニーズを理解し、その人らしく生きるための生活支援と看護援助の実際について学ぶ。また、生活している地域の環境や社会資源、保健・医療・福祉の関係職種との協働連携の実際と地域包括ケアにおける看護職の役割について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象者とその家族の生活が理解できる。 2. 様々な在宅看護の対象者とその家族への支援方法について理解できる。 3. 在宅看護の対象者に必要な援助を指導者と共に実施できる。 4. 社会資源の利用状況を把握し、どのような保健・医療・福祉サービスが在宅看護を支援しているかを理解できる。 5. 地域で生活する人々の健康増進・疾病予防を目的とした保健活動について理解できる。 6. 医療従事者と他職種との連携と継続看護の実際について理解できる。 7. 在宅看護に対する自己の看護観と課題を明確にできる。 							
<p>授業概要(授業計画)</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護とは何か(在宅看護の定義)想起する。 2. 在宅の理解(施設内看護での発達段階別看護を基本とする)想起する。 3. 在宅での特殊な技術について想起する。 4. 在宅看護の基盤となる法律、施策についてレポート提出する。 5. 在宅看護とは何か(在宅看護の定義)想起する。 6. 公衆衛生活動の組織、機構の概要について 7. 今治市の事業概要を基に学習する。 8. 透析療法について学習(主に血液透析を受ける患者の看護) 9. 腎の構造と機能および腎不全について <p>< 訪問看護 > 37.5時間</p> <p>実習場所</p> <p>ひうち園老人訪問看護ステーション 第一訪問看護ステーションかとれあ 済生会今治訪問看護ステーション 訪問看護ステーション医師会</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の家庭訪問に同行し、在宅療養者と家族の生活の実際を見学する。 2. 在宅看護技術は、介助または見学により学ぶ。 3. 1事例の療養者について、訪問前後に情報収集し記録にまとめる。 4. 在宅ケアチームにおける多職種との協働の実際を見学により学ぶ。 5. 施設内看護と地域看護との連携の実際を理解する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							

< 保健センター> 41. 5時間

実習場所

今治市保健センター

実習内容

1. 保健衛生行政システムと具体的事業とその背景にある法的根拠や目的を理解する。
2. 保健師の活動に同行し、地域住民に対する健康の保持・増進・疾病予防の実際を理解する。
3. 健康相談、健康教育、健康診査、家庭訪問、地域組織活動の概要を理解する。

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

< 透析外来> 7. 5時間

実習場所

済生会今治病院

放射線第一病院

あゆみクリニック

実習内容(見学実習)

1. 看護師と一緒に行動し、透析室の看護の流れ、対象者への関わりを学ぶ。
(観察項目・方法、苦痛の緩和 等)
2. 良い状態で透析治療を受けるための在宅での自己管理指導の実際を学ぶ。
3. 関連職種との連携について見学し学ぶ。

カンファレンス

指導者参加の反省会を実施する。

< 施設見学> 3. 5時間

実習場所

社会福祉協議会

実習内容(見学実習)

1. 社会資源の活用について理解する。
2. 地域社会の推進を図るための事業の概要とその活動を知る。

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
訪問看護(60%)、保健センター(40%)に評価し、合計点を成績とする。

科目名	手術室実習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			実習			1	3年 前期
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	45時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>手術による身体侵襲のための生命侵襲のため生命の危機状態にある対象の特徴と看護の原則を理解する。また、感染予防の基本を理解する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の苦痛・不安に対する精神的援助の必要性を理解する。 2. 麻酔導入から覚醒までの対象の状態・変化を理解する。 3. 手術環境を整えることができる。 4. 手術室における清潔・不潔を理解する。 5. 手術を受ける対象へ尊厳をもって接する態度がとれる。 6. 看護学生としての責任と義務を果たす行動ができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無菌操作について 2. 手術室における看護の役割 3. 手術を受ける患者の身体的・心理的特徴 4. 見学する手術の術式や解剖、麻酔 5. 麻酔や手術侵襲に伴う生体反応、および身体的・心理的・社会的影響 <p>< 手術室 > 45時間</p> <p>実習場所 愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術および手術中の看護を見学 外回り看護師の役割を中心に学ぶ 不安・苦痛に対する精神的援助 麻酔導入から覚醒までの看護 2. 手術環境の整備を看護師とともに実施 3. 手術室における清潔・不潔の理解 見学、無菌操作の技術のデモンストレーション実施 4. 機械器具、機材の滅菌方法・消毒法の見学 5. 原則として、HCUの見学 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。

科目名	成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			実習			2	3年 前期
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>急性期、回復期にある対象および家族を総合的に理解し、対象の健康レベルや機能障害など個別性に応じた生活援助及びセルフケア能力を高める基礎的能力を養う。</p> <p>さらに、手術室実習を通して、手術室看護の実際について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期、回復期にある対象の特徴を理解できる。 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 対象の持つ健康障害を理解し、個別的な看護を計画し、実施できる。 対象の健康障害に応じたセルフケア能力を高める援助について理解できる。 手術室における患者の安全・安楽な看護の実際と看護師の役割について理解できる。 手術を受ける対象の苦痛・不安に対する精神的援助について理解できる。 保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割が理解できる。 急性期、回復期にある対象に、尊厳をもって接することができる。 自己の観察観を深め、専門職としての態度を習得できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 麻酔や手術侵襲に伴う生体反応、および身体的・心理的・社会的影響 代表的な術後合併症とその発生機序 心臓血管系・運動器系解剖・検査 受け持ち患者の疾患の病態生理（術式）・看護 受け持ち患者の術前・術後経過と術前に必要な看護、術後に必要な観察項目と看護 							
<p>< 病棟 > 90時間</p> <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 周手術期にある患者1名受け持ち、看護過程の展開をする。 （場合により急性期・回復期のいずれかにある患者） 対象と家族の理解 健康障害・機能障害に応じた援助の実施 他職との連携・継続看護の見学、一部実施 原則として、受け持ち患者入室時、ICU、HCUの見学 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>							

科目名	成老人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			実習			2	3年 前期
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>慢性的な経過をたどる病気や障害をもつ対象と家族および終末期にあり緩和ケアを必要とする対象と家族を理解し、健康障害に応じた状態の回復・維持への看護と対象のQOLを尊重した看護支援ができるための看護実践能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期・終末期にある対象を理解できる。 対象の持つ健康障害を理解し、看護展開が展開できる。 慢性期・終末期にある対象が障害を受容し、新たな生活の維持・拡大あるいは、その人らしく生を全うできるようなQOLに対する援助ができる。 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 自己の死生観について表現できる。 自己の慢性期・終末期の看護観についての深まりを表現できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の発達段階を想起する。 慢性期・終末期の看護の特徴を想起する。 受け持ち患者の疾患の病態生理・看護をレポートする。 死への受容過程について想起する。 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 主として、成人期にあたり生涯コントロールを必要とする慢性疾患をもつ患者もしくは終末期にある患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 受け持ち患者の優先度の高い複数の看護問題に対する援助を計画し、実施する。 他職種との連携や継続看護の実際について、看護師とともに一部実施する。 慢性期・終末期の看護のあり方について考え、自己の看護観についての深まりを表現する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>							

科目名	小児看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	3年 前期	
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>子どもと家族を社会の中で捉え、総合的に理解し、さまざまな状況にある子どもと家族の権利と尊厳を重視した個別的看護が実践できる基本的能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達と発達課題について理解できる。 2. 子どもと家族の健康の保持増進に向けて、必要な支援について理解できる。 3. 健康障害や入院が、小児と家族に及ぼす影響について理解できる。 4. 健康障害をもつ小児と家族を総合的に理解し、看護上の問題に対して個別的・計画的な看護を実施できる。 5. 子どもと家族のセルフケア能力を高めるための指導について理解できる。 6. 子どもを一人の人格をもつ存在として尊重し、子どもの権利を守る行動をとることができる。 7. 小児看護に対する自己の看護観及び自己の課題を表現できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習 レポートとして提出する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉法 2. 保育所（園）と幼稚園の違い 3. 乳幼児期の年齢別の成長発達の特徴と基本的生活習慣の獲得状況 4. 健康な小児の日常生活の援助 5. 小児の主な疾患の病態生理・合併症・一般的看護 6. 小児科外来の看護、健康診断について 7. 集中治療を要する低出生体重児の看護 8. 小児の事故防止・感染防止・予防接種について <p>< 保育所 > 37.5時間 実習場所 今治市立保育所（13施設） エンゼル保育園 実習内容 健康な小児の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の成長発達と発達課題を理解する。 2. 乳幼児のコミュニケーションの特徴を保育士と乳幼児との相互作用を通して理解する。 3. 保育士とともに保育活動の実施または見学する。 発達段階別に応じた遊びの援助、健康、安全対策の実施 基本的習慣の自立過程における日常生活の援助 4. 自己の子ども観の深まりを述べる。 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p> <p>< 病院 > 52.5時間 実習場所 愛媛県立今治病院（小児病棟・小児科外来） 実習内容 健康障害をもつ小児と家族の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患児の成長・発達段階の理解 2. 発達段階に応じたコミュニケーションがとれる。 3. 患児と家族の反応を観察しながら、病棟の計画に基づいた援助を実施する。 病状に応じた観察・遊びの援助・事故の予防・日常生活援助 4. NICUの見学 5. 小児科外来を訪れる子どもと家族の健康問題を理解し、対象に応じた援助及び保健指導の実際を学ぶ。 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
保育所（40%）、病院（60%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	母性看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	3年 前期	
区分	専門分野						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	眞木智美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>周産期にある母子の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、看護過程の展開を通して、周産期に必要なウェルネスの視点を学ぶ。また、生命の誕生という貴重な場面を通し、生命の尊厳について改めて考える機会とする。さらに、現代社会の中で子育てを支援するための母子保健医療チームの一員としての看護者の役割について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠前・中・後期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際について理解できる。 2. 分娩第1・2・3期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際について理解できる。 3. 産褥期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際を理解できる。 4. 新生児期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際を理解できる。 5. 産褥期及び新生児期における母子及び家族の健康増進上での問題と課題を把握し、看護過程を展開できる。 6. 母子保健医療チームの一員としての役割と責任を自覚し、生命の尊厳に配慮した行動をとることができる。 7. 母性看護学実習を通し、自己の母性観・父性観を深め表現できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <p>レポートとして提出する内容①～④</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期における特徴と看護 2. 分娩期における特徴を看護 3. 産褥期における特徴を看護 4. 新生児期における特徴を看護 5. 母性看護に特有な技術（校内実習を行ったもの）について想起する。 <p>< 地域産科 > 45時間</p> <p>実習場所 きら病院</p> <p>実習内容</p> <p>妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥婦及び新生児を1名ずつ受け持ちアセスメントし、健康課題を明確にし援助する。 2. 産婦人科外来 見学により、妊娠前・中・後期の妊婦の健診、診察の介助、保健指導、助産師外来の実際を学ぶ。 3. 妊娠期や出産後に行われる集団指導への参加や個人指導の見学をする。 4. 実習病院独自の母子への支援活動に参加し、母子支援の在り方を学ぶことができる。 5. 産婦の援助、分娩の計画をする。 6. 母性特有の看護技術について積極的に経験（実施・見学）する。 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							

< 総合病院 > 45時間

実習場所

愛媛県立今治病院

実習内容

妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護

1. 産褥婦及び新生児を1名ずつ受け持ち、重点的にアセスメントし看護過程を展開する。
2. 妊娠期や出産後に行われる集団指導への参加や個人指導の見学をする。
3. 産婦の援助、分娩の見学をすることができる。
4. 母性特有の看護技術について積極的に経験（実施・見学）する。

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
地域産科（50%）、総合病院（50%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	精神看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	3年 前期	
区分	専門分野						
担当者	井上末美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	長谷部亜希子	資格	看護師 保健師	実務経験	有・無	時間	
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神障害をもつ患者を理解し、精神の健康の保持増進・回復に対する看護の役割を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の全体像を把握し、精神障害を持つ人を理解できる。 2. 精神の健康の保持増進・回復に対する看護の特徴を理解できる。 3. 病棟で行われている看護を把握し、対象に適した看護計画を立案・実施・評価できる。 4. 対象のプライバシーを保護し、対象を尊重して関わることができる。 5. 精神保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。 6. 実習病院を通して、精神科医療の現状について理解できる。 7. 実習を通して精神看護に対する自己の看護観を述べるができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の種類と特徴について既習の知識を想起し、整理しておく。 2. 精神保健医療福祉システムについて既習の知識を想起し、整理しておく。 3. 精神看護学の基本技術（対人関係的技術、精神状態のアセスメント技術）について確認、整理しておく。 4. 看護過程に沿った具体的な生活援助（セルフケア不足に対する援助）方法について既習の知識・技術 5. 受け持ち患者の疾患に関係する病態生理、症状、検査、治療、処置、一般的看護の方法についてまとめる。 <p>実習場所</p> <p>正光会今治病院 十全ユリノキ病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を1名受け持ち、生活者としての精神障害者に対する理解を深め、日常生活の援助を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係技術（患者・看護者関係）を用いて、対象との治療的対人関係を形成する。 2) 対象との関わりについてプロセスコードを使って、自己対峙・自己洞察する。 3) 看護過程を用いて、対象に応じたセルフケア不足に対する援助を実践する。 4) 社会資源の活用、対象の今後の生活に向けてのリハビリテーション援助を構想する。 2. 精神科病院、地域で行われている保健・医療・福祉アプローチ（SST・作業療法、デイケア、訪問看護など）について知る。 3. 病院・地域における各種専門職との連携について知り、看護師のコーディネーション機能を理解する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>							

科目名	統合実習	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期	
				演習		2	3年 後期	
区分	専門分野							
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	90時間	
担当者	渡部康子	資格	看護教員 保健師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間		
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、既習の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員としての体験、複数患者への援助を通して、看護実践能力を身につける。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の一員としての病棟師長（看護長）の役割を理解し、見学をとおして看護管理の実際について理解できる。 2. 看護チームの一員としてチームリーダーおよびチームメンバーの役割を理解できる。 3. 複数の患者に関わり、ケアの優先順位の判断や時間管理を経験することで、複数の患者の状況に応じた看護の実際を理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として協働できる。 5. 看護師となるための責任と義務を果たす行動をとることができる。 6. 統合実習を通して、看護師となるための倫理観を培うことができ自己の課題を明確にできる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習病棟の主な疾患・治療・検査・看護については既習の知識を復習しておく。 2. 実習施設の病院および看護部の概要について施設オリエンテーションの資料を基にレポートする。 3. 看護管理の概要、看護方式の種類についてレポートする。 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理について、病棟師長（看護長）より説明を受け、1日同行実習をする。 2. チームリーダーと共に行動し、リーダーの役割を理解する。 3. チームメンバーの一員として看護の流れを把握し、看護を見学および実施する。 4. 学生が受け持った患者を担当している看護師と行動し、複数の患者への看護を看護師とともに実施する。 5. 受け持ち患者の状況を総合的に情報収集し、計画に沿った援助を実施しながら、看護師と時間調整しながら同行する。 6. 複数の患者に関わり、ケアの優先順位の判断や時間管理を経験する。 7. 看護チームの一員として担当看護師、チームリーダーに報告・連絡・相談を実施する。 8. 日勤者から夜勤者への患者の情報伝達を見学、実施する。 								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>								